

**本校の特徴**

○SSH (2002～)、SGH (2014～) 指定校。小中高大院一貫校

豊富な国際交流の機会 (中高海外研修派遣人数 877 名、受入れ 578 名 2017 年度実績)

○主対象生徒

GL コース：2 年 1 クラス 41 名 (女 32,男 9)、3 年 1 クラス 39 名 (女 32,男 7)

計 80 名(女 64,男 16)

GJ クラス：1 年 3 クラス

計 110 名(女 60,男 50)

* GL (Global Learning) コース : 2014 年度 高校 2 年生よりスタート

* GJ (Global Junior) クラス : 2013 年度 高校 1 年生よりスタート 2 年次より SSH,SGH の取り組みコースを想定。カリキュラム上は他の 1 年生と同じだが、進度や扱う内容を上記に特化して展開。

○教育課程表

コア	高校 1 年	国語総合	世界史 A	政治・経済 (現代社会観)	数学 I	数学 A	化学基礎	生物基礎	芸術 I	体育	保健	コミュニケーション 英語 I	英語プレゼン テーション	社会と情報	総合	H	R	
CE	高校 2 年	1 国語表現	2 古典 B	3 日本史 A (日本近代史)	4 数学 II	5 数学 B	6 地学基礎	7 芸術 II	8 体育	9 保健	10 英語 2A	11 英語 2B	12 家庭基礎	13 文社特講 I	14 高大連携 I	15 課題研究	16 H	
	高校 3 年	1 現代文 B	2 古典 B	3 地歴選択 地理 B 日本史 B 世界史 B	4 倫理	5 数学 3	6 理科選択 化学 生物 地学	7 体育	8 英語 3A (演習含む)	9 英語 3B	10 文社特講 II	11 高大連携 II	12 課題研究	13 H	14 R			
SS	高校 2 年	1 国語表現	2 日本史 A (日本近代史)	3 地理 A	4 数学 II	5 数学 B	6 物理基礎	7 化学	8 芸術 II	9 体育	10 保健	11 英語 2A	12 サイエンス イングリッシュ I	13 家庭基礎	14 理系特講 I	15 課題研究	16 H	
	高校 3 年	1 現代文 B	2 倫理	3 数学 III (演習含む)	4 物理	5 化学	6 体育	7 英語 3A	8 サイエンス イングリッシュ II	9 理系特講 II	10 高大連携 III	11 課題研究	12 H	13 R				
GL	高校 2 年	1 国語表現	2 古典 B	3 日本史 A (日本近代史)	4 数学 II	5 数学 B	6 地学基礎	7 芸術 II	8 体育	9 保健	10 英語 2A	11 英語ティス カッション I	12 グローバル イングリッシュ	13 家庭基礎	14 現代社会 システム	15 国際比較 文化研究	16 課題研究	17 H
	高校 3 年	1 現代文 B	2 古典 B	3 世界史 B	4 倫理	5 数学 3	6 グローバル サイエンス	7 体育	8 英語 3A	9 英語ティス カッション II	10 イングリッシュ イメージーション 中国語	11 日本史 特講	12 国際関係 ゼミ	13 課題研究	14 H	15 R		

* MS コース：1 年～3 年 (各 2 クラス)。医学部を始めとする難関大学合格を目指す。

学校設定科目 (GL コース)：

2 年次：現代社会システム 2 単位、国際比較文化研究 1 単位

3 年次：イングリッシュ・イメージーション/中国語 3 単位、国際関係ゼミ 3 単位 (高大連携)、日本史特講 2 単位

○教科間の連携、異なる教科教員のかかわりについて

→ 校務分掌の一つに「SGH 推進機構」を設置し、週 1 回時間割の中に会議を設定。メンバーは教科の枠を越えて英語科、社会科、数学科、事務職員、副校長で計 14 名。また、各教科授業においてグローバルイシューを意識的に取り上げ、多角的に学習する等の工夫をすることで SGH 活動を意識して実施している。

○課題研究の指導、校内での成果共有の方法について

→ 2014 年度より課題研究科（教科制）を立ち上げ、毎週の定例会議を設定して情報共有や研修に努めている。様々な教科教員が協働して取り組むことで全体への波及効果を生んでいる。また、課題研究活動と SGH 各研修を結びつけて展開。さらに、長年の SSH 課題研究指導の実績を活かしながら展開。生徒は 2 年・3 年で各 1 単位を履修。3 年の 9 月に校内生および外部教育関係者を招き中間発表会、1 月に最終発表会を実施。グローバルイシューに関わる講演会や実地研修を経て、卒業時には成果論文を提出（GL コース生は英語論文）。研修については事前事後学習を重視し、学校説明会・全校集会・学年集会・クラス集会等で発表の機会を設け、自身の体験を言語化し伝える工夫をすることを通して、広く知見を共有している。

○他校への普及の模索について

→ HP での発信はもちろん、1 年の集大成として本校主催の国際フォーラム RSGF を 2014 年度から毎年度実施。外部教育関係者を招き広く成果を発信するとともに、海外・国内他校の参加を得て、モデルケースを提示。また、教育関係者対象の「教育のグローバル化を考えるフォーラム」を同年度より毎年度開催。本校の実践を発表し、普及に努めている。

○高大連携について

→ 週に一度高校生が立命館大学に赴き、大学授業・AP 科目を受講（単位認定）。国際関係学等について大学生とともに講義やゼミで学ぶ。また、大学から講師を招いた講演会やワークショップ等様々な取り組みを共同展開している。立命館アジア太平洋大学からは留学中の国際学生を招き、ディスカッション等を展開。さらに、立命館大学生組織と連携して SDGs に関わるレクチャーやディスカッション等、高校生のキャリア形成に資する取り組みもおこなっている。

○特色ある取り組み、SSH との棲み分け、相乗効果について

RSGF（Rits Super Global Forum） 2014 年度より実施 2017 年度 10 か国 14 校が参加

JSSF（Japan Super Science Fair） 2003 年度より実施 2017 年度 25 か国 49 校が参加

RSGF では、それまでの各実地研修と密接に結びついた課題研究活動の成果を披露するだけでなく、期間中海外生徒との長時間に渡るディスカッション等を経てアウフヘーベン

されるプロセスを重視し展開している。また、フォーラムでの結論や提言・事後アクションの取り組みなどへと繋げることで、単なるイベント主義に陥ることのないように留意して実施している。

国際フォーラムの企画や運営をはじめとする知見、海外校とのネットワーク等についてはSSHの実績を活用。社会科学系のフォーラムを待望されていた他校や、潜在的な需要の掘り起こし等の契機にもなっている。SGHでのディスカッション・メソッドとその結論のありかたは、研究発表を主とするSSHの活動にも好影響を与えている。さらに、11月をInternational Novemberと銘打ち上記フォーラムやフェアを開催することで本校が国際交流の場となっている。

教育システムの制度設計としては、他に校内に「国際センター」を設置し、効果的な研修のあり方や生徒の動きを確認しながら事業の重複などの調整をはかることができている。



<p>本校の教育理念</p> <ul style="list-style-type: none"> 立命館学園は「平和と民主主義」を教学理念 教育ミッションとして、「世界に貢献できる人を育てる」 国際社会でリーダーとなって牽引できる人材の育成 	<p>これまでの国際化の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期、中期、短期の海外研修企画の実施（平成26年度1年間の短期海外派遣企画は30企画） 海外交流校の拡大（教育交流協定締結校10校を含め、海外交流校は約30校） 英語教育の改革（TOEFLによる英語力評価、プレゼンテーションを軸にした英語運用能力の向上）
---	---

研究開発課題 「平和な社会の実現に貢献できる人材の育成を目指す教育システムの研究開発」

主対象生徒 平成26年度より設置する高校2,3年のGLコース（各35名）、及び、それにつながる高校1年GJクラス（2クラス70名）の生徒を主対象として研究開発を行う。

研究開発組織 SGH研究開発チームを校務分掌として位置付け、担当責任者、担当教員（数名）、及び、海外留学アドバイザー、事務職員、事務補助員を配置する。

《課題研究》

